令和８年度全国学力・学習状況調査の結果について

平塚市教育委員会

１　はじめに

令和８年４月に実施した「令和８年度全国学力・学習状況調査」の本市立学校の調査結果の概要をお知らせします。本市の調査結果及び課題等を公表することにより、児童生徒に関わる様々な立場の方々に関心を持っていただき、調査結果から見える成果や課題を共有しながら、学校・家庭・地域と連携し、一体となって平塚市の子どもたちを育てていきたいと考えております。

なお、本調査は、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分を測定したものであり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。この調査結果を本市の児童生徒の学力や学習状況を把握する資料の一つであると捉え、児童生徒一人一人に応じた教育指導や学習状況の改善のために役立てていきたいと考えております。

市民の皆さまにおかれましては、本調査の目的及び結果公表の趣旨を御理解いただくとともに、本市の児童生徒の健全育成のために公表資料を有効に御活用いただきますようお願いいたします。

２　調査の概要

○調査の目的

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
・これらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査の実施日

国語・算数・数学	令和８年４月２３日（木）
中学校英語「読むこと」「書くこと」「聞くこと」及び生徒質問調査	令和８年４月２０日（月）～２３日（木）のうち１日
中学校英語「話すこと」	令和８年４月２４日（金）～５月２９日（金）のうち１日
児童質問調査	令和８年４月２４日（金）～５月８日（金）のうち１日

○調査対象

小学校第６学年　　中学校第３学年　　原則として全児童生徒

○調査内容

（１）教科に関する調査（小学校：国語、算数　中学校：国語、数学、英語）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、次のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問調査

＜児童生徒に対する調査＞

・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

＜学校に対する調査＞

・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

3　教科に関する調査について

◎教科別調査結果

＜小学校＞

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	7.6 問 / 13 問	58%	8.0 問	3.1
算数	8.6 問 / 16 問	54%	9.0 問	4.1

＜中学校＞

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	9.3 問 / 15 問	62%	10.0 問	3.4
数学	8.8 問 / 16 問	55%	9.0 問	4.5

※中学校英語はＣＢＴで実施し、ＩＲＴに基づき算出したスコアにより結果を表示している。

	平均 IRT スコア	中央値、50 パーセンタイル	標準偏差
英語	505	502	112.9

＜用語説明＞

平均正答数：児童生徒の正答数の平均。(/の右側は総問題数)

平均正答率：児童生徒の平均正答数を百分率で表示。

中央値　　：集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。
平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

標準偏差　：集団のデータの平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。
標準偏差が０とは、ばらつきがない(データの値が全て同じ)ことを意味する。

ＩＲＴ　　：児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさしで比較できる。

ＩＲＴスコア　：ＩＲＴに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、５００を基準にした得点で表すもの。

パーセンタイル：データ全体を小さい順に並べたときに、ある値が下から数えて何%の位置に相当するかを表す数値。総数の１／４番目に当たる値が第一四分位（２５パーセンタイル)、真ん中に当たる値が第二四分位（中央値、５０パーセンタイル)、３／４番目に当たる値が第三四分位（７５パーセンタイル）となる。

◎各教科の結果の概要

グラフ（レーダーチャート）は各教科の内容又は領域・観点・問題形式別に表したもの
◇…多くの児童生徒ができている内容　　◆…課題が見られる内容

【小学校国語】

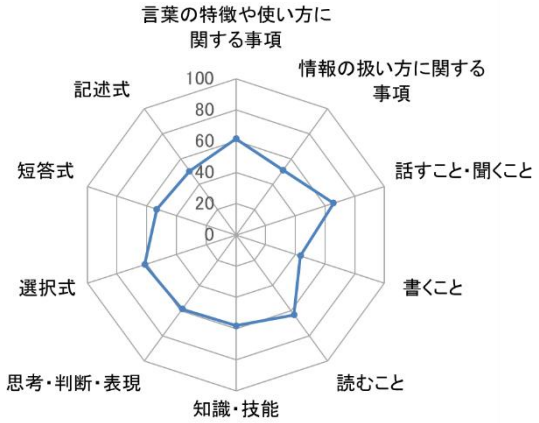
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。

内容別に見ると、「話すこと・聞くこと」については、全国の正答率と同程度であり、「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」、「読むこと」については、全国の正答率をやや下回っている。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全国を下回っている。特に「書くこと」については、正答率が５割未満であり、課題があると考えられる。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。

問題形式別に見ると、「選択式」については、全国の正答率と同程度であり、「記述式」については、全国の正答率をやや下回っている。また、「短答式」については、全国の正答率を下回っている。

なお、無解答率については、全国をやや上回っている。



◇話や文章の種類とその特徴について理解することができる。

◇相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。

◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（ふしぎ→不思議）

◆考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができる。

【小学校算数】

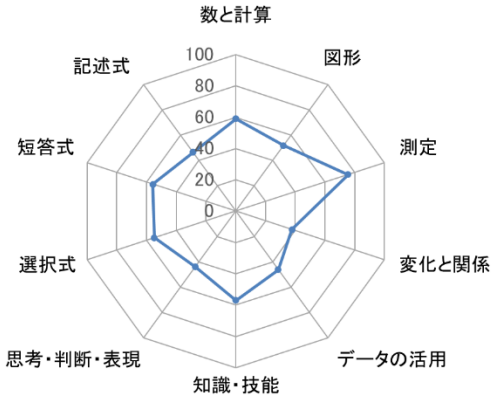
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。

領域別に見ると、全ての領域について、全国の正答率をやや下回っている。特に「変化と関係」、「データの活用」については、正答率が５割未満であり、課題があると考えられる。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。特に「思考・判断・表現」については、正答率が５割未満であり、課題があると考えられる。

問題形式別に見ると、どの問題形式についても、全国の正答率をやや下回っている。特に「記述式」については、正答率が５割未満であり、課題があると考えられる。

なお、無解答率については、全国と同程度である。



◇小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができる。

◇示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができる。

◆立方体の体積の計算による求め方について理解している。

◆二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。

【中学校国語】

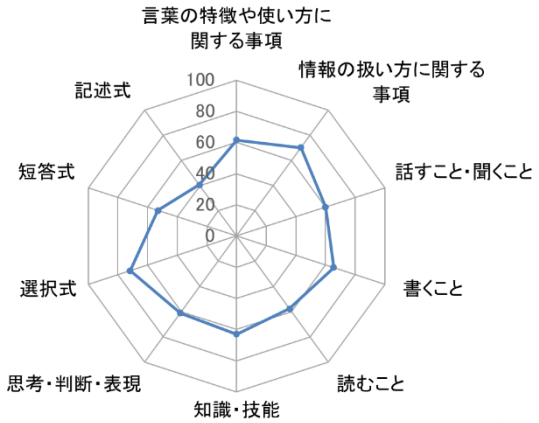
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。

内容別に見ると、「情報の扱い方に関する事項」については、全国の正答率と同程度であり、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」については、全国の正答率をやや下回っている。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。

問題形式別に見ると、「選択式」については、全国の正答率と同程度であり、「短答式」、「記述式」については、全国の正答率をやや下回っている。特に「記述式」については、正答率が５割未満であり、課題があると考えられる。

なお、無解答率については、全国と同程度である。



◇助動詞の働きについて理解している。

◇表現の効果を考えて描写することができる。

◆互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。

◆表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができる。

【中学校数学】

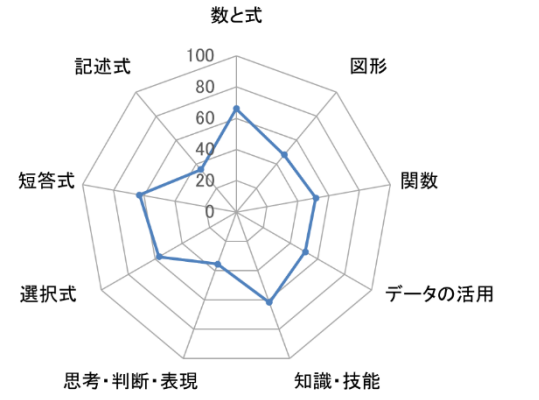
今回出題された学習内容に関して、本市の平均正答率は全国をやや下回っている。

領域別に見ると、全ての領域について、全国の正答率をやや下回っている。特に「図形」については、正答率が５割未満であり、課題があると考えられる。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。特に「思考・判断・表現」については、正答率が５割未満であり、課題があると考えられる。

問題形式別に見ると、全ての問題形式について、全国の正答率をやや下回っている。特に「記述式」については、正答率が５割未満であり、課題があると考えられる。

なお、無解答率については、全国をやや下回っている。



◇具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができる。

◇同類項の意味を理解しているかどうかをみる

◆統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができる。

◆データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができる

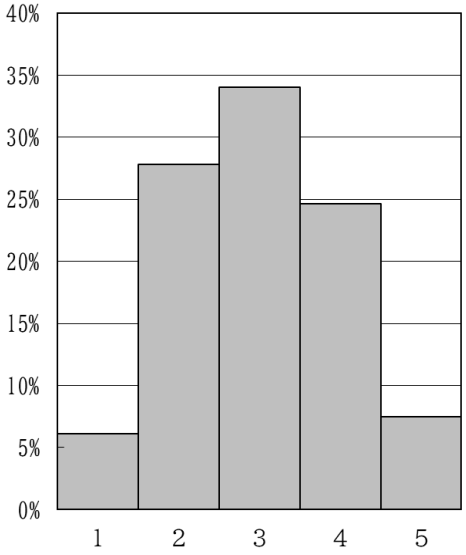
【中学校英語】

ＩＲＴバンドの２、５に該当する生徒の割合は全国よりも高く、ＩＲＴバンド１、３、４に該当する生徒の割合は全国より低くなっている。

なお、無解答率については、全国よりも高くなっている。

※「ＩＲＴバンド」とは、ＩＲＴスコアを１～５の５段階に区切ったもので、３を基準のバンドとし、５が最も高いバンドとなる。

〔ＩＲＴバンド分布グラフ〕



（横軸：IRT バンド　縦軸：割合）

◇日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができる。

◇日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができる。

◆社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができる。

◆社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができる。

４　児童生徒質問調査について

＜生活習慣や学習環境等に関する調査結果＞（抜粋）

質　問　内　容	小学校		中学校	
	平塚市立	全国公立	平塚市立	全国公立
朝食を毎日食べている。	92.9%	93.3%	87.6%	90.9%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	81.6%	82.8%	74.9%	80.5%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	89.4%	90.7%	88.9%	92.4%
自分には、よいところがあると思う。	86.1%	85.6%	78.8%	84.0%
将来の夢や目標を持っている。	83.3%	81.8%	65.6%	67.6%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	96.5%	96.2%	93.3%	95.1%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	97.0%	95.8%	94.8%	95.9%
学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、1日当たりの勉強時間が、2時間以上。	22.5%	21.6%	39.0%	30.1%
学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、1日当たりの勉強時間が、30 分未満。	27.3%	20.2%	20.7%	18.4%
学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。	85.6%	85.7%	83.4%	87.0%

※数値には、「どちらかといえば」「時々」を含む。

＜教科に関する調査結果と質問紙調査結果の関係＞
※児童生徒質問紙の質問の回答状況と各教科の調査結果を比べ、相関関係（２つの項目の間の何らかの関係性）が見られたものを抜粋。（必ずしも因果関係を示したものではない。）

◎次のように回答した児童生徒に、正答率が高い傾向が見られる。

「学習習慣、学習環境等」
・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。
・土曜日や日曜日など学校が休みの日、１日当たりの勉強時間が長い。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

「地域や社会に係わる活動の状況等」
・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。

「ＩＣＴを活用した学習状況」
・自分がＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思う。
・自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思う。
・自分がPC・タブレットなどのＩＣＴ機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思う。

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」
・５年生までに〔１、２年生のときに〕受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。
・５年生までに〔１、２年生のときに〕受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
・５年生までに〔１、２年生のときに〕受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。
・学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。
・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う。

「総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳」
・総合的な学習の時間では、ＰＣ・タブレットのＩＣＴ機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできている。

「学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）」
・国語の授業の内容はよく分かる。
・国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。

「学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）」
・算数〔数学〕の勉強は得意だ。
・算数〔数学〕の勉強は好き。
・算数〔数学〕の授業の内容はよく分かる。
・算数〔数学〕の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている。

「学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）」
・英語の勉強は好きだ。

「各教科に関する調査の解答状況」
・今回の国語の問題では、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
・今回の算数〔数学〕の問題では、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。

※「　」は、「令和８年度全国学力・学習状況調査報告書（質問紙調査）」（令和８年８月文部科学省　国立教育政策研究所）による分類
※〔　〕は、中学校の設問

５　今後に向けて

市教育委員会では、本市の児童生徒が確かな学力を身に付けていくため、本調査結果の分析と考察を行い、その結果を各学校に提供しました。各学校では、本市全体の結果分析を踏まえ、各学校の調査結果の多面的な分析と検証を行い、自校のよさや課題を踏まえた取組を学校全体で組織的・継続的に進めていくことが重要であると考えます。市教育委員会として、各学校が、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導の充実を図ることができるよう、各学校の状況に応じ、必要な指導や支援を行ってまいります。

本調査は、知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるものという学習指導要領の趣旨を踏まえて、知識と活用を一体的に問うものになっています。

本市全体の調査結果を見ると、小学校国語・算数及び中学校国語・数学の平均正答率は全国をやや下回っており、中学校英語の平均ＩＲＴスコアは、全国より高くなりました。

本調査からは、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表することや、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行うことなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動ができる児童生徒ほど、学力の定着との関わりが見られる傾向にあることが分かりました。

また、各教科に共通した課題として、自分の考えや根拠を明確にして説明したりまとめたりすることに課題が見られます。

授業では、主体的・対話的で深い学びの授業改善などを通して、児童生徒が考えと根拠を区別して表現したり読み手や書き手に伝わるよう理由を示したりすることを意識させるとともに、各教科等の特質に応じて式やグラフ、図で表現したりするなど、身に付けた知識を活用する学習活動を充実させることで、知識の概念的な理解につながると考えます。

市教育委員会としては、これまでも学習指導要領の基本的な考え方とともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進、評価の仕方などを含めた研修会を行ってきましたが、今後も各学校の教育活動が円滑に実施されるよう、管理職の研究会や各種担当者会において、必要な研修を行ってまいります。

児童生徒の確かな学力・豊かな心・健やかな体を育むためには、学校と家庭・地域との連携が重要です。今後とも、市民の皆さまの学校教育・家庭教育への御理解と御支援・御協力をよろしくお願いいたします。